

DAVINCHI

株主メモ

事業年度 3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会 5月
基準日 定時株主総会 2月末日
 期末配当金 2月末日
 中間配当金 8月末日
 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定め
 た日
公告方法 電子公告により行います。
 ただし、電子公告を行うことができない事故その他
 やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に
 掲載いたします。
株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 東京都府中市日鋼町1番10 (〒183-8701)
(電話お問合せ先) 住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417
 (その他のご照会) ☎ 0120-176-417
同 取 次 所 住友信託銀行株式会社 全国各支店

株式会社テイター

IR窓口:東京都港区芝公園二丁目4番1号 ダヴィンチ芝パークA館8F
TEL (03) 5408-5532 メールアドレス: ir@tay2.co.jp
インターネットホームページ <http://www.tay2.co.jp>



株主の皆様へ

第19期報告書

(2008年3月1日～2009年2月28日)

株式会社テイター

Top Interview トップインタビュー

Q 2009年2月期の業績についてお聞かせください。

A 2009年2月期は、古本市場事業に関しましては、店舗オペレーションの徹底的な見直しによりコストの適正化及び業務効率化を図るとともに、既存のティーツコーポレートサイトのリニューアルに加えて、機動的に店舗情報を発信する目的に「ふるいち店舗情報サイト」をオープンし、お客様の店舗への誘導を図ってまいりました。アイ・カフェ事業に関しましては、本部コストを中心としたコスト管理の徹底を行うとともに、次世代版の店舗運営POSシステムの開発を完了し大口顧客への納品を行うなど売上及び利益の確保に努めてまいりました。EC事業に関しましては、@古本市場サイトの知名度向上や他のサイトとの連携などにより、@古本市場のアクセス数を増加させることで売上高の拡大を図ってまいりました。しかしながら、世界的な景気後退に伴う個人消費の低迷に加え、国内テレビゲーム市場において、ゲームハード各機種が一定の普及率を達成したことやゲームソフトの需要拡大が一段落したことの影響を受け、連結売上高は415億9千3百万円（前期比8.7%減）となりました。

利益面におきましては、連結売上高の減少があったものの、物流改善プロジェクトが成果を出し始めるなど各種コスト管理の成果により、連結営業利益は8億9千5百万円（前期比38.2%減）、連結経常利益は8億4千5百万円（前期比40.2%減）と、対前期比では減益でありながらも、2008年9月に開示させていただいた業績予想値を達成することができました。しかし、古本市場及びアイ・カフェ店舗の減損処理、投資有価証券評価損、古本在庫の一部廃棄等に伴う特別損失の計上により、連結当期純利益は1億3千8百万円（前期比78.2%減）となりました。

Q グループ再編の狙いについてお聞かせください。

A 当社は2009年9月1日付で、連結子会社である株式会社ユーブックと株式会社アイ・カフェを吸収合併することを決定いたしました。

本合併は、急速な経営環境の変化に対しより一層グループ経営の戦略性と機動性を高めるとともに、経営資源の最適化及び事業セグメント間のシナジーの最大化並びに本部機能の集約による効率性の追求によってアイ・カフェ事業及びEC事業の業績改善を図り、当社グループ全体の企業価値を高めることを目的として実施するものであります。

当社以外に各子会社株式を保有している株主に対して行う株式の割当て比率につきましては、株式会社ユーブックの株式1株に対して、株式会社ティーツの株式0.5株を割当て、株式会社アイ・カフェの株式1株に対して、株式会社ティーツの株式を2.0株割当て交付します。合併により割当てる株式は当社が保有する自己株式から充当いたします。

Q 2010年2月期業績についてお聞かせください。

A 2010年2月期は、米国の金融危機が実態経済にも大きく影響し、国内需要の落ち込みや円高に伴う輸出の減少等の景況感の悪化が見込まれるなど、前期以上に厳しい経営環境となることが予想されます。当社グループはこのような経済環境の変化及びこれに伴うお客様の消費パターンの変化を的確に捉え、適切に対応できる行動力をさらに強化することにより、お客様そして株主の皆様への「満足」を創る」ことに向け、新たなスタートを切る1年にしたいと考えております。

古本市場事業におきましては、引き続きドミナントエリア内へ直営店を中心として、収益性を重視した立地や賃借条件を厳選した出店を行うとともに、取り扱い商材の組み合わせの変更や出店立地の検討をしてまいります。店舗運営面においては、より一層のコスト管理と来店客に対する接客レベルの向上により、来店客数の拡大に重点を置いたオペレーションを行ってまいります。アイ・カフェ事業におきましては、店舗業務の効率化や本部費用の徹底的な見直しによるコスト削減により、利益確保に努めてまいります。EC事業におきましては、買取強化や物流センターの効率的利用によるリサイクル品の品揃えの拡充、オペレーションの見直しによる業務改善を進め、収益力の向上を図ってまいります。

また、連結子会社である(株)ユーブック及び(株)アイ・カフェと当社との経営統合による本部機能強化及び間接経費削減により、当社グループの利益確保に努めてまいります。なお、ワークスタイルの改善や業務効率化促進を視野に入れた人事制度の改革と階層別研修の充実・自己開発の促進など従業員の成長をサポートする環境整備に努め、会社全体の継続的な成長を目指してまいります。

以上の取り組みにより、2010年2月期連結売上高は416億円（前期比0.0%）、連結営業利益は9億5千万円（前期比6.1%増）連結経常利益は8億8千万円（前期比4.1%増）、連結当期純利益は4億円（前期比189.6%増）、を見込んでおります。



代表取締役社長 大橋康宏

Sales Activities 営業の概況

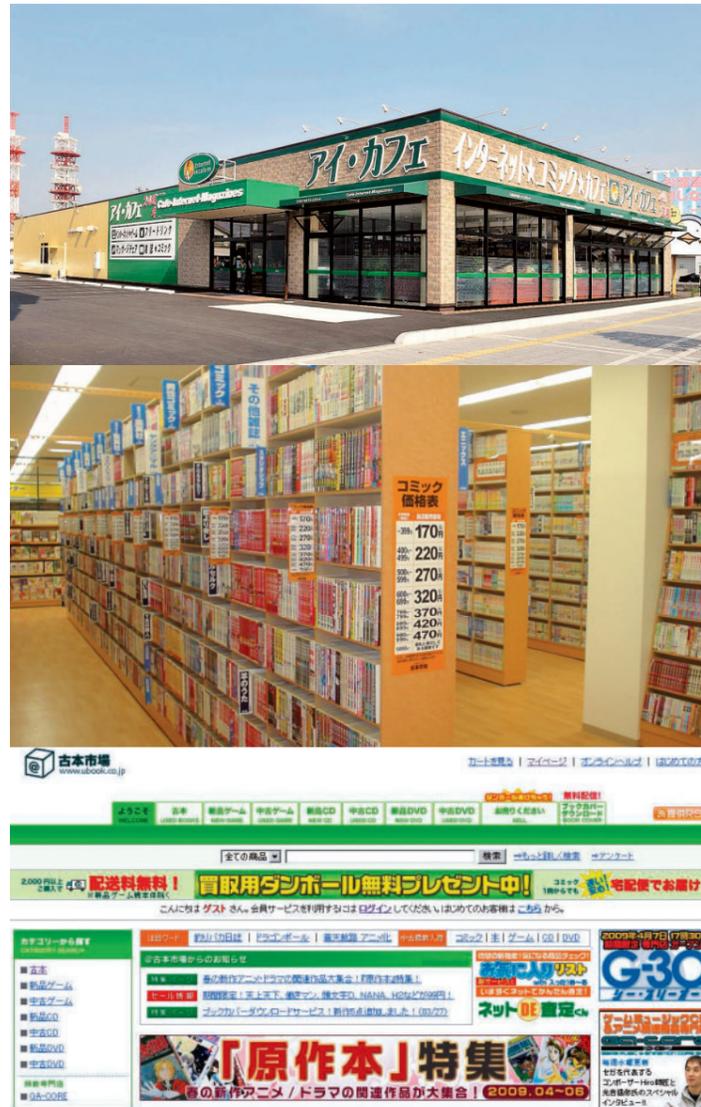
2009年2月期は世界的な景気後退に伴う日本国内での個人消費の低迷の影響に加え、ゲーム市場が活況であった前年同期の反動減により、2009年2月期連結売上高は415億9千3百万円（前期比8.7%減）、連結営業利益は8億9千5百万円（前期比38.2%減）、連結経常利益は8億4千5百万円（前期比40.2%減）、連結当期純利益は1億3千8百万円（前期比78.2%減）となりました。

古本市場事業

古本市場事業におきましては、店舗オペレーションの見直しを行い、業務効率化及びコストの適正化に努めてまいりました。また、既存のテイツーコーポレートサイトのリニューアルに加えて、機動的に店舗情報を発信することによりお客様の店舗への誘導することを目的に「ふるいち店舗情報サイト」をオープンいたしました。そして、「物流改善プロジェクト」を通じて、古本管理精度の向上、物流コストの見直しを行うことで、利益率の向上及び業務効率の向上を行ってまいりました。

新規出店は、直営店として古本市場東村山店（東京都）、古本市場柏原店（大阪府）、古本市場桶川店（埼玉県）、古本市場西大島駅前店（東京都）の出店を行い、店舗網を拡充いたしました。またリサイクルの新業態の開拓のため、古着のリサイクルショップDon Don Down on Wednesday 四十瀬店（岡山県）を出店したほか、古本市場店舗との相乗効果を図るため、Family Mart 西大島駅前店と伊興本町二丁目店を出店いたしました。なお、古本市場松原店（大阪府）のスクラップ&ビルドの実施は、店舗競争力強化に大きく寄与いたしました。

これらの取り組みを行いました。厳しい経済状況により個人消費が低迷したことに加え、新品ゲーム販売が好調であった前年同期の反動減が重なり、当連結会計年度における古本市場事業の売上高は383億1千2百万円（前期比9.5%減）、営業利益は21億5千3百万円（前期比19.7%減）となりました。



アイカフェ事業

アイ・カフェ事業におきましては直営店の新規出店を抑制し、FC店としてアイ・カフェピーアーク竹ノ塚店（東京都）、アイ・カフェ田宮店（徳島県）2店舗を新規出店いたしました。また、新メニューの導入や割引クーポンの発行などのキャンペーンを実施し、一部の店舗においてはお客様のご利用時間に応じてお得なバック料金に自動的に切り替わる「最適プラン選択システム」を導入し、お客様の利便性向上を図るとともに客単価改善を実現してまいりました。また、アイ・カフェ岡山本店のスクラップ&ビルドを実施し、店舗競争力の強化を行ってまいりました。

連結子会社であるインターピア株式会社においては、次世代版の店舗運営POSシステムの開発が完了し、大口顧客への納品を行いました。なお、国内経済環境悪化を背景に店舗に大きな投資負担が発生しないセキュリティ関連サービスやフィルタリング関連ソリューションの店舗単位での販売を積極的に行ってまいりました。

こうした結果、アイ・カフェ事業の売上高は28億4千7百万円（前期比1.1%増）となりました。利益面におきましては、営業損失は1億5千7百万円（前連結会計年度は営業損失2億2千4百万円）と、営業損失を縮小することができました。

EC事業

EC事業におきましては、リサイクル品の高価買取施策の実施やテーマ別古本販売をはじめとする各種販売活動の実施、会員限定キャンペーンの実施などにより、品揃えの拡充やリピーター顧客の拡大により売上高の向上に注力いたしました。また、ゲーム音楽及びアニメ関連商品をインターネット上で販売する専門店「GA-CORE」サイトを立ち上げ、他のECサイトとの差別化を図りました。加えて、ECサイトの利便性を高めるため、サイト構造の見直しや主要な案内ページのリニューアルなどシステムの開発・改修に努めてまいりました。

こうした結果、EC事業の売上高は5億9百万円（前期比0.6%増）、営業利益は1百万円（前期比83.1%減）となりました。

* 事業の種類別セグメント情報は10ページをご参照ください。

New Activities トピックス

新規出店（古本市場、アイ・カフェ）

2009年2月期下半期には古本市場、アイ・カフェに加え、当社グループにとっては新規業態である古着ショップやコンビニエンスストアの出店を行い、合計7店舗出店いたしました。

古本市場は、2008年11月に「柏原店」（大阪府）、「桶川店」（埼玉県）、2008年12月に「西大島駅前店」（東京都）を、アイ・カフェは2008年12月に「田宮店」（徳島県）を出店いたしました。さらに、新規商材、新規業態の開拓のため、2008年11月に古着のリサイクルショップ「Don Don Down on Wednesday 四十瀬店」（岡山県）を出店したほか、2008年12月に古本市場店舗との相乗効果により利益率向上のため「Family Mart 西大島駅前店（東京都）」と2009年2月に「Family Mart 伊興本町二丁目店」（東京都）を出店いたしました。

2010年2月期におきましては、古本市場事業の安定的な成長を目指し、引き続きドミナントエリア内への直営店を中心とした出店を行ってまいります。



古本市場 桶川店



アイ・カフェ 田宮店



Family mart 伊興本町二丁目店

第4次基幹システム導入検討開始

当社の基幹系システムである「第3次CRMシステム」は、単品管理商材の拡大、日次決算の実現による在庫管理の最適化、購買履歴の分析による発注およびマーケティングへの活用により当社ビジネスの根幹を支えております。しかしながら、昨今の当社を取り巻く経営環境変化のスピードは増大し、お客様のニーズも多様化する大変革期を迎えております。

当社といたしましては、新たな顧客価値の創造に基づく継続的成長を目指し、さらなる成長実現と市場優位性の確保のために、抜本的なシステム改修が必要との認識に基づき、複数の外部有識者と共同で「第4次基幹システム構築」を目的としたプロジェクトを発足いたしました。

この「第4次基幹システム」は、最新のIT技術や方式を積極的に検討し、第三次CRMシステムで実現した弊社の強みをさらに発展させ、迅速な意志決定をサポートし、常にお客様のニーズにマッチした事業戦略の展開をスピーディーに可能にすることを目的としており、当社は当システムを通じてより一層お客様の「満足を創る」ことを目指してまいります。



物流改善プロジェクトを実施

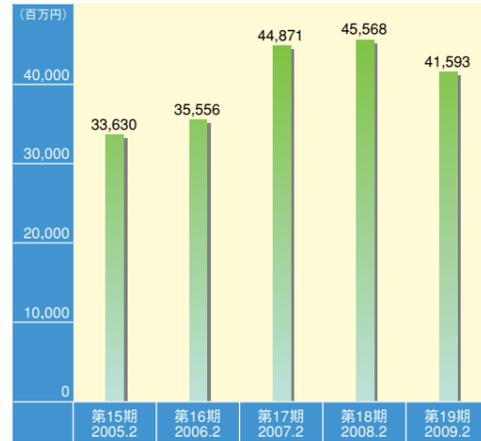
当社は2009年2月期において、物流コストの見直しや古本管理オペレーションの改善を目的に「物流改善プロジェクト」を発足いたしました。

当該プロジェクトにおいては、今後の出店計画等をもとに物流センターが必要とする適正在庫量を再定義し、適正在庫の維持に必要な店舗及び物流のオペレーションの具体的改善策並びに再定義した適正在庫を上回る過剰在庫の廃棄を実施いたしました。これらにより、利益面では流通コスト・物流コストの削減が可能となり、順調にその成果を出し始めております。

今後も店舗および物流倉庫での適正在庫の維持を意識したオペレーションを引き続き行い、コスト削減による利益面での貢献に加え、業務効率改善や販売力向上に努めてまいります。

Financial Highlight 財務データ (連結)

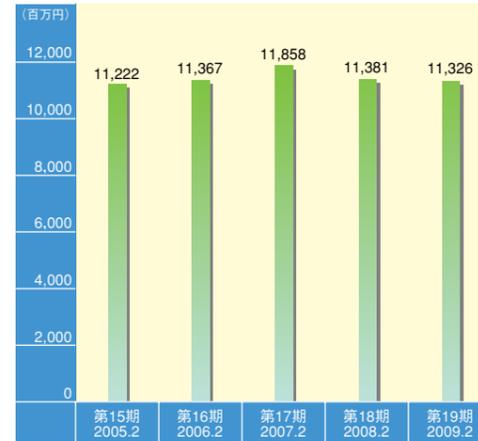
■ 売上高



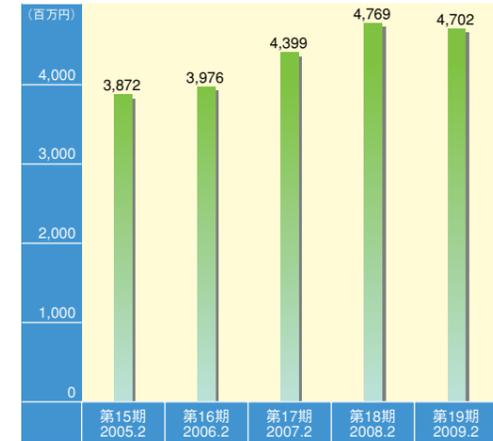
■ 経常利益



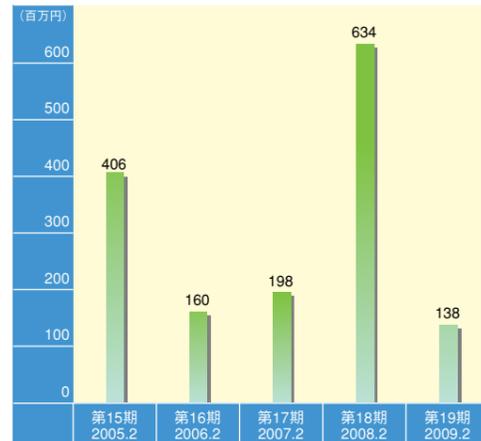
■ 総資産



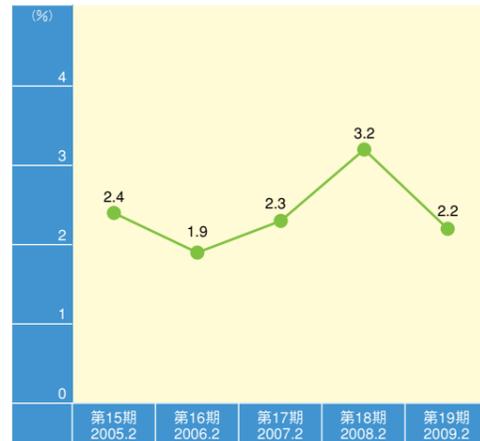
■ 純資産



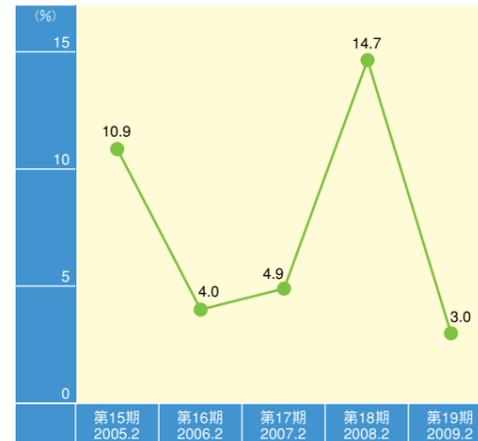
■ 当期純利益



■ 売上高営業利益率



■ 自己資本利益率 (ROE)



■ 自己資本比率



Financial Data 連結財務諸表

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科目	当期 (2008年3月1日から 2009年2月28日まで)	前期 (2007年3月1日から 2008年2月29日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	132	1,530
税金等調整前当期純利益	482	1,247
減価償却費	533	483
その他営業活動による増減額	63	409
小計	1,078	2,140
法人税等の支払額	△882	△561
その他	△63	△48
投資活動によるキャッシュ・フロー	△501	△934
有形固定資産の取得・売却による収支	△305	△342
無形固定資産の取得による収支	△102	△209
差入保証金の払込・返還による収支	△26	△84
その他	△67	△298
財務活動によるキャッシュ・フロー	622	△936
短期借入金の純増減額	△100	△110
長期借入金の借入・返済による収支	884	△652
その他	△161	△173
現金及び現金同等物の増加額	253	△340
現金及び現金同等物の期首残高	1,054	1,394
現金及び現金同等物の期末残高	1,308	1,054

ポイント解説 4
税金等調整前当期純利益の減少に加え、法人税増加などにより、営業活動によるキャッシュ・フローは減少しました。

連結株主資本等変動計算書

当連結会計期間 (2008年3月1日から2009年2月28日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等		新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定			
2008年2月29日残高	1,165	1,119	2,612	△342	4,555	2	0	7	202	4,769
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当	—	—	△130	—	△130	—	—	—	—	△130
当期純利益	—	—	138	—	138	—	—	—	—	138
自己株式の取得	—	—	—	△30	△30	—	—	—	—	△30
持分法適用会社減少に伴う剰余金増加額	—	—	1	—	1	—	—	—	—	1
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△3	△0	13	△54	△45
連結会計年度中の変動額合計	—	—	8	△30	△21	△3	△0	13	△54	△67
2009年2月28日残高	1,165	1,119	2,621	△372	4,534	△1	0	20	147	4,702

Financial Data 財務諸表

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期 (2009年2月28日現在)	前期 (2008年2月29日現在)
【資産の部】		
流動資産	5,436	5,194
現金及び預金	949	704
商品	3,791	3,687
その他	695	803
固定資産	4,542	4,590
有形固定資産	1,464	1,574
建物	886	925
その他	578	649
無形固定資産	269	197
投資その他の資産	2,807	2,818
差入保証金	1,323	1,271
その他	1,484	1,547
資産合計	9,978	9,785
【負債の部】		
流動負債	3,303	3,915
買掛金	1,071	1,272
短期借入金	500	600
1年内返済予定長期借入金	672	485
その他	1,059	1,556
固定負債	2,030	1,262
長期借入金	1,604	827
その他	425	434
負債合計	5,333	5,177
【純資産の部】		
株主資本	4,626	4,598
資本金	1,165	1,165
資本剰余金	1,119	1,119
資本準備金	1,119	1,119
利益剰余金	2,713	2,655
自己株式	△372	△342
評価・換算差額等	1	2
その他有価証券評価差額金	1	2
新株予約権	20	7
純資産合計	4,645	4,608
負債純資産合計	9,978	9,785

損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期 (2008年3月1日から 2009年2月28日まで)	前期 (2007年3月1日から 2008年2月29日まで)
売上高	38,327	42,338
売上原価	28,479	32,028
売上総利益	9,848	10,309
販売費及び一般管理費	8,833	8,680
営業利益	1,014	1,629
営業外収益	134	131
営業外費用	176	129
経常利益	973	1,631
特別利益	4	12
特別損失	440	759
税引前当期純利益	537	883
法人税、住民税及び事業税	347	736
法人税等調整額	1	△41
当期純利益	188	188

Stock Information 株式の状況／会社の概要

株式の状況 (2009年2月28日現在)

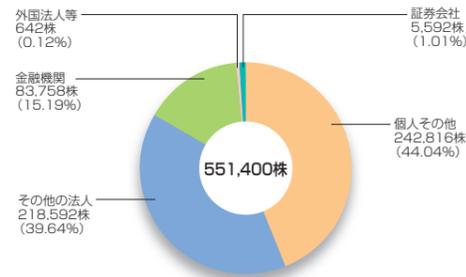
■ 発行可能株式総数	2,000,000株
■ 発行済株式総数	551,400株
■ 株主数	5,840名

大株主

株主名	持株数	出資比率
有限会社ワイ・エイ・ケイ・コーポレーション	165,000株	29.92%
株式会社山陰合同銀行	21,000株	3.81%
秋山良夫	20,000株	3.63%
ティーツ従業員持株会	13,601株	2.47%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	11,286株	2.05%
株式会社中国銀行	10,383株	1.88%
東京海上日動火災保険株式会社	10,000株	1.81%
大橋康宏	9,555株	1.73%
株式会社トマト銀行	7,934株	1.44%
株式会社三菱東京UFJ銀行	7,000株	1.27%

(注) 当社は自己株式49,577株を保有しておりますが、表記しておりません。

所有者別株式分布状況



会社の概要 (2009年2月28日現在)

商号	株式会社ティーツ
英訳名	TAY TWO CO.,LTD.
店舗名	古本市場、ふるい、アイ・カフェ、ブック・スクウェア、Don Don Down on Wednesday、Family Mart
創業	1989年10月
設立	1990年4月
本社	岡山市北区今村650番111 TEL (086) 243-8600
東京本部	東京都港区芝公園二丁目4番1号 ダヴィンチ芝パークA館8F TEL (03) 5408-5100
代表者	代表取締役社長 大橋 康宏
*資本金	1,165,507千円
従業員数	470名 パート・アルバイト1,738名

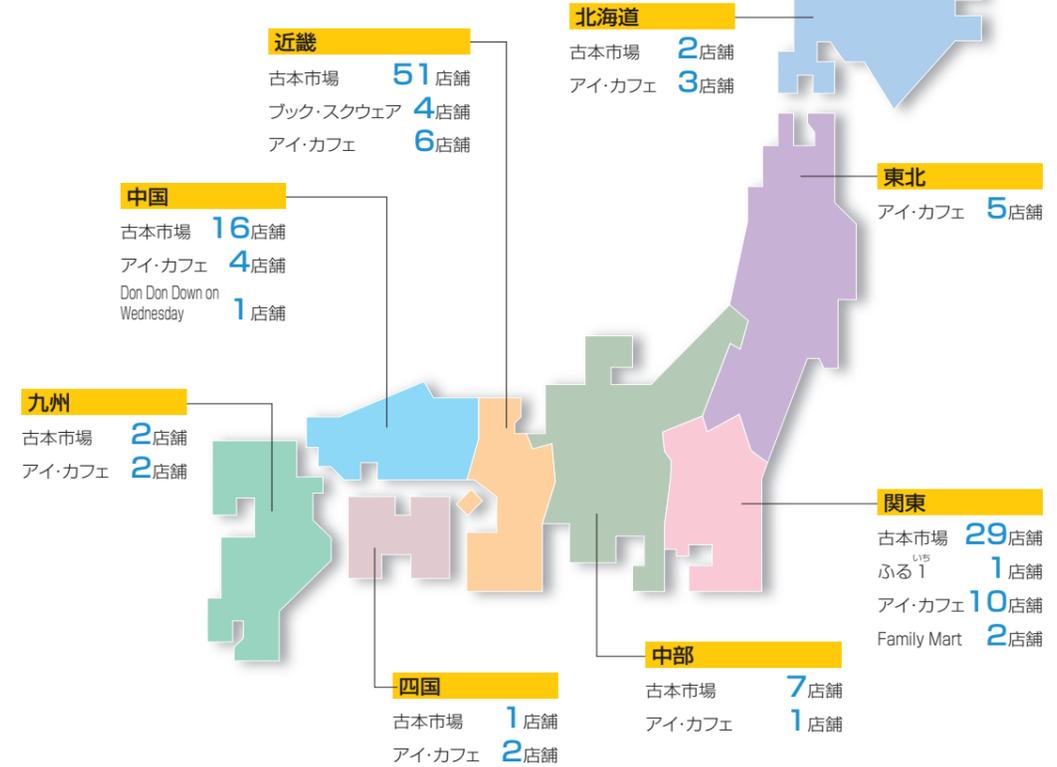
*主な事業内容

古本、TVゲームソフト・ハード、DVD、CD等の販売・買取
及びビデオレンタル業務、アイ・カフェ(インターネット・コミック・カフェ)の運営
(注) *はティーツグループ全体に関する記載であります。

役員 (2009年5月26日現在)

代表取締役社長	大橋 康宏
取締役副社長	堀 久志
常務取締役	片山 靖浩
取締役	関本 慎治
取締役(社外)	寺田 勝宏
取締役(社外)	安田 育生
常勤監査役(社外)	吉田 就彦
常勤監査役(社外)	西川 豊
監査役(社外)	武田 由隆
監査役(社外)	平田 修
監査役(社外)	岡本 博之

Net Work 店舗一覧 (2009年4月30日現在)



新店舗

店舗名	所在地	オープン日
古本市場 柏原店	大阪府柏原市大正3-2-31	2008年11月27日オープン
古本市場 桶川店	埼玉県桶川市西2-8-44	2008年11月27日オープン
古本市場 西大島駅前店	東京都江東区大島3-1-6	2008年12月18日オープン
アイ・カフェ 田宮店	徳島県徳島市南田宮2-2-46 遊場2F	2008年12月20日オープン
Don Don Down on Wednesday 四十瀬店	岡山県倉敷市四十瀬1111-1	2008年11月15日オープン
Family Mart 西大島駅前店	東京都江東区大島3-1-6	2008年12月18日オープン
Family Mart 伊興本町二丁目店	東京都足立区伊興本町2-7-14	2009年2月26日オープン